

木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議経過要旨

会議名	令和元年度 第4回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会			
日時	令和2年1月31日(金) 午前14時00分～午前15時30分	場所	木津川市役所 5階 全員協議会室	
出席者 ■出席者 □欠席者	委員	<p>【第2号】 <input checked="" type="checkbox"/>真山 達志委員(会長) <input checked="" type="checkbox"/>今里 佳奈子委員(副会長)</p> <p>【第3号】 <input type="checkbox"/>市川 浩之委員 <input type="checkbox"/>畠上 拓也委員 <input checked="" type="checkbox"/>中崎 鉄也委員 <input checked="" type="checkbox"/>吉田 慎太郎委員 <input checked="" type="checkbox"/>長尾 達也委員 <input checked="" type="checkbox"/>姜 京希委員 <input type="checkbox"/>松尾 有基委員 <input checked="" type="checkbox"/>佐脇 貞憲委員 <input checked="" type="checkbox"/>西村 正子委員 <input checked="" type="checkbox"/>三上 かず子委員 <input checked="" type="checkbox"/>川崎 あき委員 <input checked="" type="checkbox"/>浦辻 克穂委員 <input type="checkbox"/>新谷 まさこ委員 <input type="checkbox"/>福田 藍委員 <input type="checkbox"/>大倉 竹次委員 <input checked="" type="checkbox"/>澤田 晋治委員 </p>		
		<p>事務局 武田マチオモイ部長 奥田学研企画課長、松下学研企画課長補佐、比志島学研企画課企画政策係長</p>		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・前回委員会における主な意見 ・今後のスケジュール 3. 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について 4. その他 5. 閉会 			
会議結果 要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 <ul style="list-style-type: none"> ○事務局から開会を宣言した。 ○会議録の署名委員として姜委員を指名した。 2. 報告 <ul style="list-style-type: none"> ○前回委員会における主な意見 ○今後のスケジュール <p>資料1 【木津川市まち・ひと・しごと創生推進委員会】に基づき事務局から報告があり、確認した。</p> 3. 議事 <ul style="list-style-type: none"> ○第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について ○資料2 【第2期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）】に基づき事務局から説明があり、承認した。 4. その他 5. 閉会 			

<p>会議経過旨要</p> <p>◎会長 ○委員 →事務局</p>	<p>○KPI（重要業績評価指標）の目標値を達成したら、「全てが上手くいった」という評価をするのか。 →「KPI」の数値を達成したからといって「大成功であった」と一律に評価するものでない。数値だけではなく内容が伴わないといけないことは承知しており、委員会等で進捗状況を公表し、評価していただくことになる。</p> <p>○「歴史遺産等の保全・活用によるまちづくり」のKPIがなぜ「文化財出前講座」なのか。「保全」というのであれば「環境整備」などを目標にするべきではないか。 →KPIは「文化財出前講座」としているが<主な事業>として「文化財保存活用地域計画の作成事業」「史跡恭仁宮跡公有化事業」を挙げている。「計画の策定率」「公有化事業率」をKPIとして表現することが難しいため、文化財への興味をもっていただく手段としての「文化財出前講座」をKPIとした。</p> <p>○KPI「キヅガワゴン活用イベント入込客数」の目標が低い。現時点で、もっと集客できているはずではないか。 →担当課と調整する。</p> <p>○「歴史文化遺産を活用した観光振興の促進」のKPI「キヅガワゴン活用イベント」は違和感がある、他にもあるのではないか、観光客数も数字は掴んでいるのか。 →KPIとしては「キヅガワゴン」を挙げているが、この頁の目標に対するKPIとして「観光入込客数」「観光消費額」を設定しており、キヅガワゴンの集客だけで評価するものではない。</p> <p>○「総合戦略」の在り方として、「KPI・数値目標」を設定しなければならないが、取り組みの中には数値に表せられないものもある。数値として評価できるものを選ぶと目標の「中心」から離れてしまうという矛盾が生じることもある。 今回、計画にあげられている事業は、木津川市が「地方創生」に活用するために積極的に展開していくという意思表明である。委員の中には、様々な事業にかかわっておられる方もいる。そういう方々の現地の意見や要望を取り入れて中身を充実させながら、KPIを達成できるように進めていくことになる。</p> <p>○KPI「観光情報アプリ「きづがわなう」ユーザー数」の目標数値が少なすぎるのではないか。 →2016年に設置して、毎月15人程度伸びている。目標数値については再検討する。</p>
--	--

- KPI 「観光情報アプリ「きづがわなう」は知らなかつた。「子育て支援アプリ「きづがわいい」」は知つてゐるが、便利だと思つたことはない。「ごみ分別アプリ」は便利で評判もいい。もっと魅力のあるアプリになるよう検討してもらいたい。
- もっとアプリを知つていただけるように周知するとともに、使いやすいものとなるよう検討したい。
- 山城町森林公園の利活用とあるが、現状として公園が荒れています。
→山城町森林組合に指定管理としてお願ひしているが、木津川市で唯一宿泊できる施設であるので、組合とも協議をしながら、市としてできる限りの支援はしていきたい。
- KPI 「多言語対応延べ新規取組件数」のカウントはどのレベルか。「多言語のリーフレットを作つた」というのも1件のカウントになるのか。そうであれば、もう少し、目標を高く持つてもよいのではないか。
→多言語対応ガイドラインを11月に作成した。木津川市の「多言語対応」の基本は居住者の多い「英語」「中国語」「韓国語」「ベトナム語」の4か国語。広報紙を多言語でホームページで掲載するなどを予定。インバウンド向けの対応としては「きづがわとりっぷ」という情報誌を作つてある。QRコードを読み込めば多言語版が閲覧できるようになつてゐる。
- ◎多言語対応はインバウンドも居住者も両方で取り組んでいくということ。パンフレットを作つたから「多言語対応がうまくいった」というものではないが、なにか目安をがんばつたら達成できるくらいの数値が必要なのではないか。
→「政策的な目標として設定したもの」「現在までの進捗状況を勘案したもの」の両面がある。例えば「京大農場との連携」は政策的にやっていくもの。「企業誘致」についても政策的なものであり、今回の修正で担当課と協議をして目標を引き上げている。数値を再検討し、できる部分では目標値を見直したい。
- ◎目標値であるので「無理した数値」も問題はあるが、目標であるので上を目指すものではあると思う。しかし、数値で表現できるものばかりでなく、「数値」にばかり囚われると「数値が達成できればいい」という風になる恐れもある。KPIについては、「高い」ところを目指せるものがあれば内部で検討して修正を行うことにはどの委員も反対はない。

- 木津川市は人口減少は現時点では起こっていないが、「若者の人口流出」への対応は不要という判断でKPIなどの設定がないのか。
- 木津川市には「若い世代」が多いとは思っているが、KPIとして「中学生の定住意向率」の向上を掲げているとおり、将来的に減少しないような目標は持っている。また、創業者支援などの目標は若者のUターンを狙った面もある。
- 「健康長寿のまちづくり」については、高齢者が安心して「住み続けられる」ものにしていくべきだと考えている。人口減少地域では交通手段もなく車がないと病院も行けないため、免許証の返納もできないのが現状。「たすけあい」で済む問題ではないと感じている。
- 市としても公共交通の空白地をなくすために努力はしているが、それには「利用者」が必要。本数を増やしても空のバスを走らせていては継続できなくなる。まずは「利用していただく事」が公共交通を守るために大事なこと。また、市が利用しやすい「交通網」を作っていくのも当然大切なことだと思っている。
- コミュニティバスでは限界がある、病院やショッピングセンターが送迎サービスを行っている事例もある。
- 木津川市ふるさと応援事業である「手をつないで」も送迎サービスを行っている。利用者数等を市は把握しているのか。
- 把握はしているが、手持ち資料がない、おそらく月30件程度だったと思う。運転手の確保が難しいとは聞いている。若手の運転手の確保が必要だと感じている。広報紙を活用した運転手募集などで協力していきたい。
- 「手をつないで」の理事をしている。先ほどから話題にでているがやはり「運転手不足」が問題である。要介護認定を受けていたり、障害者手帳を持っていないとサービスの提供はできず、高齢者なら誰でもサービスを提供できているわけではない。また、車両の確保も難しく、社会福祉協議会やいづみ福祉会から借りているが、需要の多い時間帯は借りることができないので、利用者のニーズに応えきれていない。
- 「健康長寿のまちづくり」の話であるが「地域公共交通ネットワークの充実」にも関わるものである。従来の公共交通の外に、新しいものを加えていくという「研究開発」や「調査」を加えるなど、木津川市の実態にあっていて持続可能なネットワークについて「考え方」を戦略に加えてもいいかと思う。
- 当尾クリエイションプロジェクトは「とおのおと」の事か、目標に「小さな拠点」とあるが、地域の活動であって、広く市民には周知していないのか。単年度事業か。
- 「とおのおと」の事。広報では周知しているが、今後はもっとPRできる方法がないか担当課とも話をしておく。「とおのおと」は現時点では単年度事業としているが、来年度以降も何らかの形で「当尾地域」で事業を行っていく予定。

○ヘルスデザイン事業はどの課が担当するのか。どのようなことをするのか。
→健康推進課が平成31年度から開始。血糖に関すること、睡眠に関すること、口腔に関すること等、生活習慣に関するテーマに基づいて、講演や講座を開催するもの。

○効果検証についてはP D C Aに基づき「管理」するとあるが「どの組織」が管理するのか。また、P D C Aサイクルを回すなかでプランの変更などはどういうタイミングで行うのか。

→効果検証は「創生本部会議=府内会議」で行い、「推進委員会」でご意見を頂く。そのご意見に基づき、事業実施課と協議・検討を行っていく。「総合戦略」は5年間のものであるから、5年後に最終評価を行うが、その間も調整をしながら進捗していく。